

『倫理コンサルテーションハンドブック 第2版』

堂園俊彦・竹下 啓 編著／神谷恵子・長尾式子・三浦靖彦 著

●定価 4,070 円(税込み) ● B5 判 184 頁 ●医歯薬出版刊

●発行年月：2024 年 8 月 ● ISBN978-4-263-73231-1



倫理コンサルテーション関係者必携の書

“青本”の第2版が出た。倫理コンサルテーション関係者必携の書の拡充版である。臨床倫理コンサルテーションを実践している皆さん、さあこれから病院内で始めようと思案している皆さんにとって、これほどの朗報はない。

さらに、次のような皆さんにも本書第2版を手にとって欲しいと思っている。日々の診療のなかで倫理的な問題への対応に不安を抱える医療者の皆さん、病院として倫理への対応が求められそれが病院の価値となる時代に奮闘する病院経営者や事務管理者の皆さん、医療と公衆衛生に関わっている行政の皆さん、そして、日本の医療が倫理的であってほしいと願う患者さん、ご家族の皆さんだ。

皆さんに心から本書をおすすめしたいポイントが2つある。

1つめは、倫理コンサルテーション運営のための優れた手引書であるのは初版と変わらず、さらにそれが第2版でパワーアップされていることだ。付録Bとして「仮想倫理コンサルテーション」が追加された。倫理コンサルテーションを始めようとするとき、先駆的に実施している病院に見学に行けたら最高だろう。それがなにかの都合で叶わなくても、付録Bがいきいきとした事例を提供してくれる。倫理コンサルテーションの始め方、ケースの分析方法、結果の返却方法に至るまで、病院のなかで生じる倫理的問題の解決の道筋が、本書第2版には散りばめられている。

2つめは、院外倫理コンサルテーションに関する記述の充実化である。倫理コンサルテーションは大規模な病院の中の一組織にとどまらず、在宅医療や地域保健活動にまであまねく広まっていくべきで、わたしたちの社会の基本的インフラストラクチャーに成長していく可能性がある。倫理コンサルテーションが、医療と市民を生活の場のレベルで繋いでいくという将来構想までも提示している点で、本書の潜在力は計り知れない。倫理コンサルテーションは、医療者だけではなく、患者さん、ご家族、さらには市民みなで構想し、発展させていくものなのだ。

堂園俊彦教授、竹下啓教授が率いる、神谷恵子弁護士、長尾式子教授、三浦靖彦教授のチームは日本最高の執筆陣だ。深い理論、豊富な経験に裏打ちされている。この執筆陣による“赤本”（『倫理コンサルテーション・ケースブック』医歯薬出版、2020年）は本書の姉妹本であるが、本書を読んだあとでさらに深くケースに触れたい皆さんには、ぜひ併せてご参照頂きたい。

(中澤栄輔／東京大学大学院医学系研究科医療倫理学分野)